



本年初から新型コロナウイルスの感染拡大問題の進捗が不透明ななか、卒業式中止、入学式中止、大学内立ち入り禁止、クラブ活動の禁止等々となり、各クラブにあっては新入部委員の確保問題もままならない状態のなか瞬く間に6か月間が経過しました。この間各クラブはどのような思いで活動をしてきたのか、幾つかのクラブに活動内容を投稿してもらいましたので掲載します。

まだまだコロナ問題が予断を許さない状況下、学長、学生部の大英断で8月29日以降部活動の再開が許可されました。このことを重く受け止め学生はもちろんのこと OBOG の方々も温かい目でご指導を頂きますようお願いいたします。

【ラグビーフットボール部】

体育会ラグビーフットボール部 2020 年度活動状況を報告いたします。



2月11日、55名の部員でシーズンを開始しました。例年通り、3月下旬までは身体を作るトレーニングを計画して練習に励みましたが、2月29日、コロナ感染拡大に伴い3月15日までの課外活動禁止通達を受け、監督・チームドクター・トレーナー指導の下、各自自宅にてZoomを用いて自体重ウェイトトレーニングを開始しました。(バーベル等の器具を使用できないため)その後も8月下旬までは、活動再開・禁止となる感

染状況が続き、Zoom トレーニング・自宅周りのランニング等々の自主練習が多い日々となりました。

また、新入学生には、監督・コーチによるリモート面談を実施し、20名(男子16名、女子4名)の仲間を得ることが出来ました。新入生も先輩同様にZoom 指導トレーニングを続けています。

8月29日から活動再開が許可され学内施設の使用が可能となりました。

「安全対策活動マニュアル」を遵守し、もちろん、強制参加ではなく、保護者承諾を得て参加可能とし、検温・手指消毒・3密回避の安全対策を徹底し練習を再開します。

再開のご判断をくださいました、北川学長、境学生部長、熊崎学生課長に御礼申し上げます。

大学スポーツにとっては大変な年となってしまいましたが、学生達が大好きなスポーツで活躍できる日が一日も早く来ることを願います。

強化委員長 八木忠則 (76卒) 寄稿

【蹴球部】

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、大学より3月1日を以て、部活動の禁止及び大学内立ち入り禁止の発令があり、活動自粛措置が取られました。自粛期間は3月1日～6月20日までとなり、その間は大学外での練習はもちろんすべての活動が停止されることを余儀なくされました。



学生はこの期間自主トレのみの活動となり、また、公式戦についてもアミノバイタル杯、4月より開催される予定でありましたリーグ戦も開催延期となりました。

なお、この時期は他大学につきましてもほとんどが同様の自粛措置が取られています。

緊急事態宣言の解除以降、大学と体育会本部とで部活動再開に向

けて幾度となく交渉してきたところ、大学より、「各部でガイドラインを定め大学に提出、大学が内容を精査のうえ許可した部にのみ活動を許可する」こととなり、大学からガイドライン作成については学生だけでなくOBが関与してほしいとの指示もあり、ガイドラインを作成、6月20日を以て、活動に制限はあるもののグラウンドの使用、活動が限定的に許可されました。

限定的な活動とは、

- ① 活動時間を2時間とし人数は30名以内とする。(毎回メンバー表を提出)
- ② 活動前に学生、スタッフは体温を測り、管理表にて管理する。
- ③ 活動は原則休日、祭日のみ。授業日はオンラインで実施している以上、授業日の活動は原則不可
- ④ 部室、シャワーなどの原則使用禁止
- ⑤ プレーしている以外の時間は原則マイボトルとする

などを条件に6月21日日曜日より練習を再開していましたが、東京都の感染状況警戒レベル引き上げに伴い、7月27日(月)以降の課外活動が再停止となりました。

公式戦であるリーグ戦が9月初旬に控えていることもあり、「活動停止」は極めて厳しい判断と言わざるを得ない状況ではあるものの、コロナ禍のなか、これ以上感染者を増加させる環境におくことを、「活動停止」にて回避することは大学として適正な判断であり、活動再開になるまで、自己の責任においてトレーニングをすることで体力維持を図ってきました。

そんな中、大学より「WITH コロナ」という世論を鑑み、加えて公式戦に入るうえで練習不足による怪我がないように準備期間を要するには早期の活動再開が必要という学長のご英断もあり、8月29日に活動再開の許可をいただき、公式戦にむけガイドラインを守りつつ、日々練習に励んでおります。

現在はリーグ戦の優勝を目指し学生が一丸となってサッカーに取り組んでおり、グラウンドにも活気が戻ってきています。OBと致しましては、コロナ禍における万全な感染対策の励行、目標である関東リーグでの復活を祈念するばかりです。

強化委員長 宮下尚麿(85卒) 寄稿



【硬式野球部】

『コロナ禍をチャンスと捉えて心身を鍛える』

体育会硬式野球部は、学生による自主運営態勢(毎年4年生が学生監督に任命されるのもその一つの表れです)を基本とし、プロ野球で実績と指導経験のある方にサポートをお願いしています。そして2月に全体練習をスタートさせました。天城高原で一週間の合宿を行った他、各選手の強化ポイントを明確にした上で自主練習に取り組み、東都大学野球リーグの三部優勝を目標にしています。

3月から6月までは、コロナ禍で課外活動が禁止され、公式戦(春のリーグ戦)を含めて全ての試合を中止せざるを得なくなり、掛ける言葉が見つからないという状態でした。

しかし学生には野球部の活動を通して、『分別のある社会人になる』との目的を持たせ、自宅でトレーニングを継続させました。6月末に活動が許可された折には、プロ野球を参考にWITH コロナを踏まえての活動が



出切るよう独自のマニュアルを作成しました。チームを3つに分けての練習など、「密」を避ける工夫をし、4か月振りの練習再開となりました。

野球場の瑞々しい緑の芝の上で、選手は軽快な動きを見せ、直ぐにでもリーグ戦を戦える状態でした。

10月開催予定となった秋季リーグ戦に向けて、コロナ禍であっても野球部の目的を果たすために各選手が自主的な行動を継続しています。

シニアアドバイザー 信太誠一（88卒） 寄稿

【硬式庭球部】



今年の7月末、加盟する関東大学テニス連盟から、新型コロナウイルス感染拡大の状況を勘案し、2020年度関東大学テニスリーグ（リーグ戦）を中止する、との通知が届きました。

硬式庭球部は、成蹊大学が創設された1949年（昭和24年）から、リーグ戦に出場してきましたが、70年を超える長い歴史の中で、リーグ戦が中止となったのは初めてのことです。

テニスは個人競技であるため、部活動としての目標は、団体戦に置かれます。中止の連絡を受けた現役部員たち、とりわけ最終

学年で迎えるリーグ戦を大きな目標としてきた4年生にとっては、たいへんなショックであり、無念だったことと思います。こうした中で、4年生から、今のチームメンバーでできなかった団体戦（対抗戦）を実施して、自分たちの区切りと、後進へのバトンタッチの機会にしたい、という相談がOBOG会に寄せられました。

他校との対外試合の実施はもちろん、通常の練習にも制限が多い状況ですので、現役と相談の結果、OBOGとのリーグ戦を模した対抗戦を開催する計画となりました。

9月20日（日）に、若手OBOG選抜15名と、現役との対抗戦を開催しました。

顧問の境先生も見学に来ていただき、試合後には、現役への激励のご挨拶を頂戴しました。

コロナ禍にあって、現役に対してOBOG会として何ができるだろうか、と悩んでいましたが、現役部員の久しぶりの笑顔を見ることができて、参加したOBOGもほっとした様子でした。

新型コロナウイルス感染拡大は、まだまだ予断をゆるさない状況ですので、今後も、OBOG会としてできる現役支援をいろいろと考えていきたいと思っています。硬式庭球部OB会会長 江橋治郎（79卒）寄稿

参考になりましたでしょうか。

学生がどうするか、どう行動するか決めなければ行けませんが、そのアドバイスが必要な時があります。学生の活動する環境を整えるとはこのような環境下だからこそOBOGが寄り添う必要があるのではないのでしょうか。自主的にトレーニングを行う学生、現代風にZoomを使用しての指導。トレーナーやドクターの指導があると心強いですね。

Information 重要なお知らせ

□9月号の原稿を頂いておきながら当方の都合でSMA news 23号の発刊が遅れてしまいました。お詫び申し上げます。

編集責任者 木村明彦